

目的 生体内過酸化脂質は老化現象を始め退行性変化を伴う多くの疾患の原因として注目され、八木法により過酸化脂質の分解産物マロンジアルデヒド (MDA) とチオバルビツール酸 (TBA) との反応生成物を蛍光測定する方法が普及しつつある。糖尿病では血管障害が強くその死因の74%に達する。糖尿病患者の血清過酸化脂質を血管障害との関連において追求することは有意義である。我々は糖尿病 35例の血清について測定を行い若干の知見を得たので報告する。

方法 Lipoperoxide Test Wako 及び八木式微量蛍光光度計 TBA型を用いた。

結果 ①過酸化脂質と各種疾患との関係: 糖尿病群で正常人の平均値より高い傾向を認めた (図1参照)。②グルコース負荷と過酸化脂質: 糖尿病群のグルコース負荷試験の血清17例のうち9例においてグルコース負荷によって血清 MDA の顕著な低下を認めた (図2参照)。③HDL-C と MDA の関係: 糖尿病群で兩者の間に有意の相関は認められなかった (図3参照)。

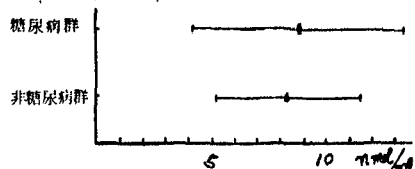


図1 糖尿病群と非糖尿病群の過酸化脂質

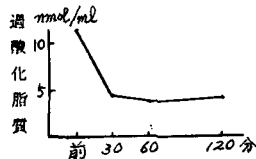


図2 グルコース負荷と過酸化脂質

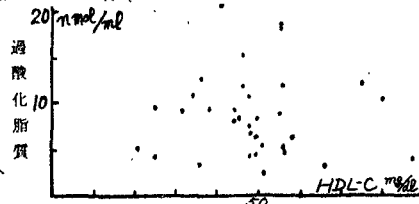


図3 糖尿病群のHDL-Cと過酸化脂質の関係